



9 フィリピン 日比友好道路 修復事業(1)(2)

大動脈である南北縦断道路の修復により
地域経済を活性化

承諾額／実行額 191億7,100万円／184億8,700万円
借款契約調印 1994年12月／1995年8月
借款契約条件 (1)金利3.0％／(2)金利2.7％(コンサルティングサービス部分は2.3％)、
返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了 2003年5月／2003年6月
実施機関 公共事業道路省(DPWH) URL: <http://www.dpwh.gov.ph>

※本事業は国家経済開発庁(NEDA)と合同評価が行われた。

本事業の目的

フィリピンの幹線道路の大動脈である日比友好道路の修復を行うことにより、道路交通の効率性を確保するとともに、地方開発ならびに同国経済の発展に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) **a**

本事業第1期、2期の実施により、総延長611.5kmの道路修復、28カ所の橋梁およびカルバート(暗渠)の修復が行われた。対象区間の年平均日交通量は概ね計画を上回っており、事業の効果が認められる。また、交通事故発生数は事業実施前後で減少はしていないが、近年の交通量の増加を考慮すると、車両数あたりの事故数は軽減しているといえる。

沿道の住民約1,000名に対して受益者調査を行ったところ、本事業の実施によって、渋滞の解消や走行時間の短縮に加え、雇用機会の増加、ビジネス機会の改善、収入の向上などの効果が挙げられた。また、物流が活発になり、農産品・工業品の輸送効率化、輸送コストの低減などにも貢献した。本事業は、特に環境に悪影響を及ぼすものではなく、工事中も散水などを行い、ほこりがたたないように工夫していた。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。



「途上国の評価キャパシティ強化」
本事業は、フィリピン国家経済開発庁(NEDA)と合同で事後評価が行われた。1年目である2006年度は、本事業と「航空保安施設近代化事業(3)」が合同評価の対象となり、それぞれに対してNEDAの担当職員が外部評価者とともにサイト視察に訪れ、データ収集や受益者調査を行った。今後も合同評価を行うことによって、将来NEDAが自ら事業評価を行っていくことをめざしている。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) **a**

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、フィリピンの国家計画である中期開発計画と合致している。中でも、幹線道路の維持管理、修復を優先課題として挙げており、事業実施の妥当性はきわめて高い。

事業実施の経済性(効率性) **b**

本事業は、事業費はほぼ計画通りであったものの、期間が計画を大幅に上回った(計画比153%)ことから効率性については中程度と評価される。遅延の主要因としては、工事開始の遅れ、台風や治安悪化による工事中断等が挙げられる。

今後の展望(持続性) **a**

本事業は実施機関の維持管理能力・体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。一方、突発的な自然災害で損傷した場合の道路の復旧など、追加的補修に必要な予算の確保が難しく、維持管理予算とその配分に長期的な課題が残る。

結論と教訓・提言

以上により本事業の評価は非常に高いといえる。本事業の教訓として、実施機関における情報管理、予算管理の改善を行うことが挙げられる。工期遅延を回避するために、政府資金の時宜を得た配分や台風などの天災を考慮した現実的な計画を立てることが望まれる。

開発途上国専門家の意見

劣化した道路の修復により陸上輸送の効率化がはかられた本事業の妥当性は高い。地域住民の所得向上もみられ、今後は事業効果を持続するべく、適切な維持管理を期待したい。

専門家の氏名: Mr. Cayetano Paderanga Jr. (元政治家)
元国家経済開発庁・社会経済計画局事務総長、スタンフォード大学経済学博士。現在は、開発・計量経済分析研究所会長、総合開発研究財団会長。専門は産業経済。